

トライアスロン競技の総合順位と各パート順位の相関性に関する研究 A research on the correlativity of the comprehensive ranking of a triathlon, and each part ranking of a triathlon

1K09B022
指導教員 主査 平田竹男 先生

井上貴博
副査 中村好男 先生

【背景】

トライアスロン選手の競技参加動機を明らかにした石川・石井(1990)の研究によると、能力・熟達因子(競争、挑戦、達成、熟達など)が最も高い競技参加動機であった。多くの選手は競争意識のもとに競技に参加している。トライアスロンに関する先行研究としてはトライアスロンを運動生理学、心理学的アプローチから分析をした研究は多く見られるが、3つのパートが存在するトライアスロンの総合順位を上げるために各パートとの関係についての分析を行った研究はまだない。

【目的】

本研究ではトライアスロン競技の総合順位と各パート(スイム、バイク、ラン)順位との相関関係を明らかにすることで、トライアスロンの総合順位を上げるために最も効率的な強化パートを導き出すことを目的とする。

【手法】

- ・分析方法…トライアスロン競技の総合順位と各パート順位について相関分析を行った。
- ・分析対象…競技レベルはトップレベルと市民レベルの2つのレベル、競技距離はスプリントディスタンス、オリンピックディスタンス、ロングディスタンス(アイアンマンディスタンス)の3つの距離に分けた。

分析の対象とした大会は以下のとおりである。

【トップレベル・スプリントディスタンス】ITU世界スプリントディスタンストライアスロン選手権2010-2011の完走者

【トップレベル・オリンピックディスタンス】ITU世界トライアスロンシリーズ2009-2012の完走者

【トップレベル・ロングディスタンス】アイアンマン・トライアスロン・ワールドチャンピオンシップ2009-2012の完走者

【市民レベル・スプリントディスタンス】天草国際トライアスロン(スプリントディスタンス部門)2009-2012の完走者

【市民レベル・オリンピックディスタンス】天草国際トライアスロン(オリンピックディスタンス部門)2009-2012の完走者

【市民レベル・ロングディスタンス】佐渡国際トライアスロンオリンピックAタイプ2009-2012の完走者

【結果】

下の表は相関分析の結果をまとめたものである。

	スイムとの相関値	バイクとの相関値	ランとの相関値
トップ・スプリント	0.430	0.751	0.876
トップ・オリンピック	0.470	0.501	0.900
トップ・ロング	0.666	0.671	0.707
市民・スプリント	0.822	0.938	0.883
市民・オリンピック	0.775	0.922	0.886
市民・ロング	0.528	0.871	0.856

【考察】

①競技レベルの観点からの考察

トップレベルでは、どの競技距離であってもトライアスロンの総合順位と各パート順位の相関値は、ランパート、バイクパート、スイムパートの順で高かった。

市民レベルでは、どの競技距離であってもトライアスロンの総合順位と各パート順位の相関値は、バイクパート、ランパート、スイムパートの順で高かった。

このことから競技レベルの違いによるトライアスロンの総合順位を上げるためのパートの優劣があることがわかった。

②競技距離の観点からの考察

スプリントディスタンスにおけるトライアスロンの総合順位と各パート順位の相関値は、トップレベルではランパート、バイクパート、スイムパートの順で高く、市民レベルではバイクパート、ランパート、スイムパートの順で高かった。

オリンピックディスタンスにおけるトライアスロンの総合順位と各パート順位の相関値は、トップレベルではランパート、バイクパート、スイムパートの順で高く、市民レベルではバイクパート、ランパート、スイムパートの順で高かった。

ロングディスタンスにおけるトライアスロンの総合順位と各パート順位の相関値は、トップレベルではランパート、バイクパート、スイムパートの順で高く、市民レベルではバイクパート、ランパート、スイムパートの順で高かった。

このことから競技距離の違いによるトライアスロンの総合順位を上げるためのパートの優劣はないことがわかった。

【結論】

①競技レベルの観点からの考察と②競技距離の観点からの考察より、トライアスロン競技において総合順位を上げることを目的に競技に参加する場合は競技距離に関係なく、トップレベルではランパートを重視した強化、市民レベルではバイクパートを重視した強化を行うことが望ましい。